

第196回 (20/ I 期)

群馬県内企業経営動向調査

(ビジネス・サーベイ)

群馬経済研究所研究員 三田正広

◆ 調査概要

～業況判断DIは過去5年間で最も大きなマイナス幅となり、5期連続の「悪化」超～

○2020年1～3月期の県内企業の業況判断DIは△17.7と過去5年間で最も大きなマイナス幅となり、5期連続の「悪化」超。内訳項目をみると、生産・販売（売上・受注）DIが5期連続の「減少」超となり、設備投資も5期連続で「減少」超となった。また、原材料（仕入）価格DIで「上昇」超が続き、人員判断DIも引き続き「不足」超。

○業種別に業況判断DIをみると、製造業が2期連続の「悪化」超、非製造業が5期連続の「悪化」超となった（10頁）。新型コロナウイルスの感染拡大を受け、12業種で「悪化」超。特にサプライチェーンに影響が出た製造業では、DIが△27.8となり大幅に悪化した。また、非製造業でも観光関連で大きなマイナス影響がみられる。

○経営上の問題点では、こうした中でも依然「求人難」が多く、特に建設業、サービス業、卸売業などで回答割合が高かった（15頁）。

○2020年4～6月期の業況判断DIは△7.9と「悪化」超が続く見通しである。

○なお、本調査では2月末時点で約8割の回答が完了していたため、3月以降の新型コロナウイルス感染拡大の影響は十分に反映されていない。

項目別DI推移

(数字の前の「△」はマイナスを意味する)

年・月期	業況判断	生産・販売 (売上・受注)	製商品 (販売) 価格	原材料 (仕入) 価格	採 算	設備投資	資金繰り	在庫水準	人員判断
17・10～12	5.9	5.2	1.7	25.6	△ 5.2	2.7	2.4	△12.8	△40.9
18・1～3	△ 0.5	△ 3.0	4.5	30.5	△12.6	2.7	2.7	△ 8.9	△39.2
4～6	0.5	△ 1.2	1.5	33.5	△ 9.7	△ 0.2	△ 0.7	△11.0	△33.0
7～9	2.9	4.1	1.3	27.4	△ 1.1	1.5	4.6	△13.5	△40.8
10～12	4.6	8.1	3.5	30.0	△ 3.0	1.7	0.7	△11.8	△37.1
19・1～3	△ 7.6	△11.4	1.4	25.2	△11.6	△ 1.5	△ 3.2	△ 8.7	△40.4
4～6	△ 1.4	△ 4.4	3.1	23.4	△ 6.9	△ 4.5	2.3	△14.3	△34.0
7～9	△ 0.7	△ 0.9	0.0	14.6	△ 3.7	△ 1.6	△ 0.3	△10.1	△39.7
10～12	△ 6.6	△ 8.1	1.2	18.0	△ 9.7	△ 0.5	△ 0.3	△13.5	△36.5
20・1～3	△17.7	△19.9	△ 0.7	14.0	△19.2	△ 5.4	△ 1.6	△ 9.6	△32.2
(前 期 比)	(△11.1)	(△11.8)	(△ 1.9)	(△ 4.0)	(△ 9.5)	(△ 4.9)	(△ 1.3)	(3.9)	(4.3)
(前回予測比)	(△13.7)	(△15.4)	(0.0)	(2.3)	(△13.0)	(1.2)	(△ 0.2)	(△ 4.0)	(3.6)
20・4～6見通し	△ 7.9	△10.9	△ 3.3	12.3	△10.5	△ 9.3	△ 3.1	△ 3.9	△28.5
(前 期 比)	(9.8)	(9.0)	(△ 2.6)	(△ 1.7)	(8.7)	(△ 3.9)	(△ 1.5)	(5.7)	(3.7)
D I	好転－悪化	増加－減少	上昇－低下	上昇－低下	好転－悪化	増加－減少	余裕－窮屈	不足－過剰	過剰－不足

◆調査要領

1. 調査の目的

群馬県内の景気動向と先行きを予測し、県内主要産業の実態を把握する。

2. 調査対象企業

群馬銀行の取引先を中心に1040社

回答社数459社（回答率44.1%）うち製造業192社 非製造業267社

3. 調査方法

記名式で当研究所の指定した項目について、その実績と見通しを記入するよう依頼した。

4. 調査時期

2020年1月下旬～3月上旬

なお、新型コロナウイルス感染拡大の影響については、2月末時点までに約8割の回答が完了していたため、3月以降の新型コロナウイルス感染拡大の影響は十分に反映されていないことに留意が必要である。

（参考）首相による大規模イベントの自粛要請：2月26日

5. 調査対象期間

2020年1～3月期実績、2020年4～6月期見通し（前期比）

◆回答状況

調査回答数

	会社数	構成比 (%)	うち 中小企業	地域別		
				中央部	東 部	その他
製 造 業	192	41.8	187	80	81	31
食 料 品	22	4.8	22	14	6	2
織 維	13	2.8	13	3	9	1
木 材 木 製 品	7	1.5	7	3	1	3
窯 業 土 石	11	2.4	11	6	2	3
電 気 機 器	20	4.4	19	5	10	5
輸 送 機 器	23	5.0	22	8	12	3
金 属 製 品	29	6.3	29	12	15	2
一 般 機 械	17	3.7	17	8	7	2
そ の 他	50	10.9	47	21	19	10
非 製 造 業	267	58.2	256	156	54	57
卸 売 業	58	12.6	56	39	12	7
小 売 業	37	8.1	34	27	6	4
建 設 業	78	17.0	74	40	17	21
サ ー ビ ス 業	94	20.5	92	50	19	25
合 計	459	100.0	443	236	135	88

注1：地域別

中央部…前橋・高崎地域
東 部…桐生・伊勢崎・太田・館林地域
その他…上記以外の地域

注2：中小企業

製造業……資本金3億円以下または
従業員300人以下
卸売業……資本金1億円以下または
従業員100人以下
小売業……資本金5千万円以下または
従業員50人以下
サービス業…資本金5千万円以下または
従業員100人以下

注3：その他の製造業に含まれる業種

パルプ・紙・紙加工品製造業
印刷・同関連業
化学工業
石油製品・石炭製品製造業
プラスチック製品製造業
ゴム製品製造業
その他、他に区分されない製造業

■本文中にあるDIについて

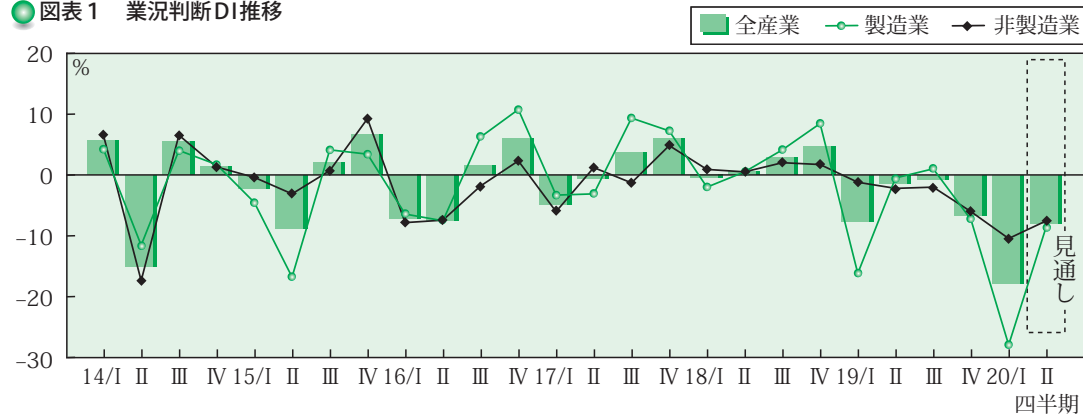
DIは、ディフュージョン・インデックス(Diffusion Index)の略。好転した企業の割合から悪化した企業の割合を差し引いたもので、企業経営者の景況判断をみる指標である。

例えば、回答した企業のうち30%の企業で生産が増加し、10%の企業が減少した場合、DI値は「 $30 - 10 = 20$ 」となる。DI値は、好不況等の浸透度を測るためのもので、量的大きさを測ることを直接の目的としていない。このため、DI値から生産が高水準であるのか、低水準であるのかの判断が困難な面もあるので、従来からの推移をみて増加傾向にあるのか、低下傾向にあるのかを判断する。

1. 自社業況判断

～過去5年間で最も大きなマイナス幅となり、5期連続の「悪化」超～

● 図表1 業況判断DI推移



	19/Ⅳ 実績	20/Ⅰ(1-3月)		20/Ⅱ 見通し
		前回予測	実績	
好転	12.2	(10.8)	8.5	11.8
変わらず	69.0	(74.4)	65.3	68.5
悪化	18.8	(14.8)	26.2	19.7
全産業DI	△6.6	(△4.0)	△17.7	△7.9

製造業DI	△7.3	(△4.7)	△27.8	△8.4
食料品	25.0	(0.0)	△9.1	18.2
繊維	△25.0	(△18.7)	△53.8	△30.8
木材木製品	△20.0	(40.0)	△57.1	14.3
窯業土石	20.0	(0.0)	△9.1	△9.1
電気機器	△31.5	(0.0)	△35.0	△5.0
輸送機器	△14.8	(7.4)	△26.1	△17.4
金属製品	△22.5	(△25.8)	△48.3	△13.8
一般機械	△5.6	(0.0)	△43.7	△18.8
その他	4.3	(△4.3)	△10.0	△8.0
非製造業DI	△6.0	(△3.4)	△10.4	△7.5
卸売業	△21.6	(△9.8)	△24.2	△8.6
小売業	△32.2	(3.6)	△13.5	0.0
建設業	5.6	(△2.8)	10.3	△10.2
サービス	2.5	(△2.4)	△18.1	△7.5

【20年1～3月期】

○全産業

消費税率引き上げの影響があった2014年4～6期(△15.0)以来の大きなマイナス幅となり、5期連続の「悪化」超。

○製造業

新型コロナウイルスの感染拡大によりサプライチェーンに影響が出た輸送機器など全9業種が「悪化」超となった。製造業全体のDIは△27.8と大幅な「悪化」超。

○非製造業

新型コロナウイルスの感染拡大により旅館・ホテルでの予約キャンセルが増加し、サービス業が「悪化」超に転じた。非製造業全体のDIは△10.4と5期連続の「悪化」超。

【20年4～6月期(見通し)】

○全産業

DIは△7.9と「悪化」超が続く見通し。

○製造業

食料品などが「好転」超に転じるも、製造業全体では「悪化」超が続く見通し。

○非製造業

建設業が「悪化」超に転じ、非製造業全体でも「悪化」超が続く見通し。

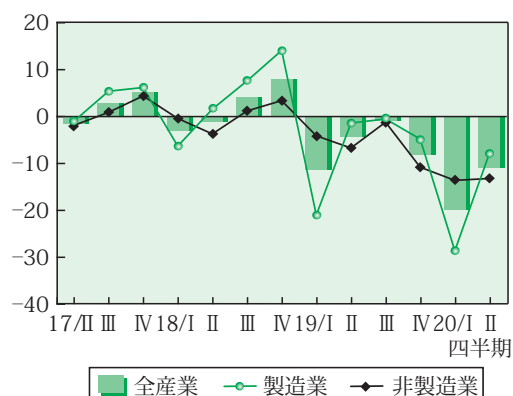
2. 項目別動向

(1)生産・販売(売上・受注)

～5期連続「減少」超でマイナス幅拡大～

	19/Ⅳ 実績	20/Ⅰ(1～3月)		20/Ⅱ 見通し
		前回予測	実績	
増 加	16.5	(13.7)	11.4	13.6
横ばい	58.9	(68.1)	57.3	61.9
減 少	24.6	(18.2)	31.3	24.5
全産業DI	△8.1	(△4.5)	△19.9	△10.9
製造業DI	△4.8	(△4.7)	△28.6	△7.8
食料品	20.0	(△20.0)	△4.5	18.2
繊維	△6.7	(△6.7)	△53.8	△23.1
木材木製品	0.0	(20.0)	△42.9	28.6
窯業土石	40.0	(△10.0)	0.0	△9.1
電気機器	△31.5	(0.0)	△40.0	△15.0
輸送機器	△18.5	(0.0)	△30.5	△21.7
金属製品	△19.3	(△25.8)	△48.3	△10.3
一般機械	5.8	(11.8)	△35.3	△5.9
その他	0.0	(4.3)	△18.0	△10.0
非製造業DI	△10.8	(△4.3)	△13.6	△13.2
卸売業	△37.2	(△21.6)	△27.6	△19.0
小売業	△34.5	(6.9)	△21.6	△10.8
建設業	5.5	(0.0)	3.9	△14.3
サービス	0.0	(△1.2)	△16.2	△9.7

● 図表2-1 生産・販売(売上・受注)DI推移(20/Ⅱは見通し)



【20年1～3月期】

○製造業

新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、繊維、金属製品、木材木製品などで大幅にDIが悪化した。

○非製造業

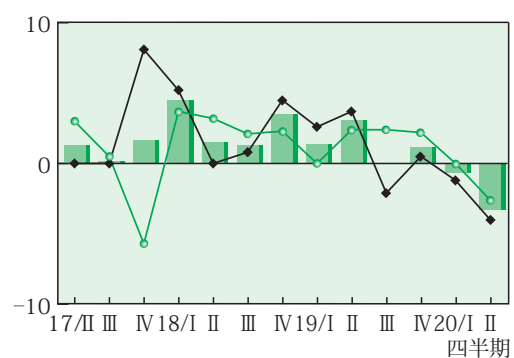
建設業が「増加」超を維持したが、旅館・ホテルや運輸倉庫などで売上が減少しサービス業は「減少」超となった。

(2)製商品(販売)価格

～「横ばい」が9割近くを占める～

	19/Ⅳ 実績	20/Ⅰ(1～3月)		20/Ⅱ 見通し
		前回予測	実績	
上 昇	8.0	(5.1)	6.1	4.1
横ばい	85.2	(89.1)	87.1	88.5
低 下	6.8	(5.8)	6.8	7.4
全産業DI	1.2	(△0.7)	△0.7	△3.3
製造業DI	2.2	(△1.6)	0.0	△2.6
食料品	5.0	(10.0)	13.6	4.5
繊維	0.0	(△20.0)	0.0	△7.7
木材木製品	20.0	(0.0)	14.3	0.0
窯業土石	30.0	(10.0)	9.1	△18.2
電気機器	△5.3	(0.0)	0.0	5.0
輸送機器	0.0	(△11.1)	△8.7	△17.4
金属製品	△3.4	(0.0)	0.0	6.9
一般機械	5.6	(0.0)	△5.9	△5.9
その他	0.0	(0.0)	△4.1	△2.0
非製造業DI	0.5	(0.0)	△1.2	△4.0
卸売業	△9.8	(△1.9)	△5.2	△10.3
小売業	10.3	(3.5)	2.7	0.0
建設業	△1.6	(△3.1)	△4.1	△6.9
サービス	5.3	(2.6)	2.3	1.1

● 図表2-2 製商品(販売)価格DI推移(20/Ⅱは見通し)



【20年1～3月期】

○製造業

木材木製品や食料品などが引き続き「上昇」超であった。一方、輸送機器や一般機械などが「低下」超となった。

○非製造業

卸売業や建設業では「低下」超が続き、一方、小売業やサービス業では引き続き「上昇」超となった。

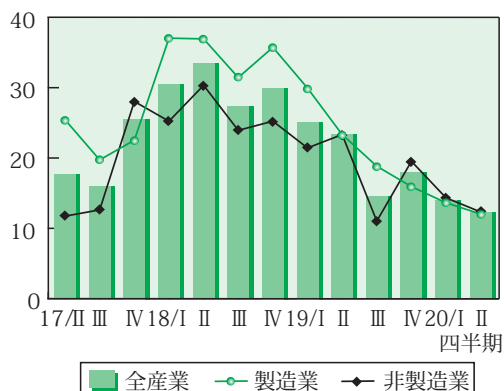
(3)原材料（仕入）価格

～「上昇」超が続くものの、プラス幅は縮小～

	19/Ⅳ 実績	20/Ⅰ(1～3月)		20/Ⅱ 見通し
		前回予測	実績	
上 昇	20.9	(13.9)	17.4	15.0
横ばい	76.2	(83.9)	79.2	82.3
低 下	2.9	(2.2)	3.4	2.7
全産業DI	18.0	(11.7)	14.0	12.3

製造業DI	16.0	(13.9)	13.7	12.1
食料品	5.0	(20.0)	18.2	9.1
繊維	40.0	(33.3)	30.8	23.1
木材木製品	20.0	(△20.0)	0.0	△14.3
窯業土石	10.0	(10.0)	9.1	0.0
電気機器	5.2	(0.0)	15.0	10.0
輸送機器	15.4	(7.7)	13.0	13.0
金属製品	6.6	(13.4)	6.9	13.8
一般機械	44.4	(22.2)	11.8	5.9
その他	13.4	(15.6)	14.6	18.8
非製造業DI	19.6	(10.0)	14.4	12.4
卸売業	17.7	(5.9)	13.8	8.7
小売業	24.1	(10.3)	13.5	5.4
建設業	14.1	(9.9)	18.7	18.7
サービス	24.3	(12.8)	11.5	12.6

● 図表 2-3 原材料(仕入)価格DI推移(20/Ⅱは見通し)



【20年1～3月期】

○製造業

繊維や食料品など8業種で「上昇」超が続いた。しかし、一般機械などで「上昇」との回答が減少し、製造業全体のDIは5期連続で低下した。

○非製造業

運輸倉庫を中心にサービス業では「上昇」超幅が縮小した。

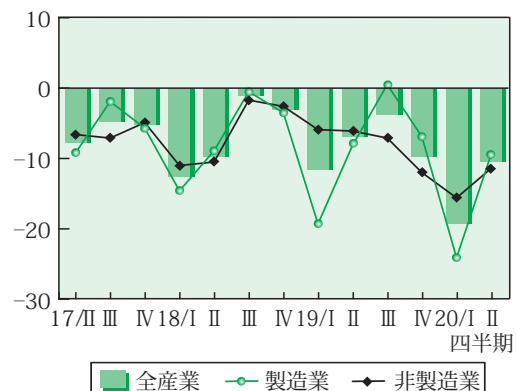
(4)採 算

～「悪化」超幅が拡大～

	19/Ⅳ 実績	20/Ⅰ(1～3月)		20/Ⅱ 見通し
		前回予測	実績	
好 転	10.6	(8.7)	5.9	8.8
変わらず	69.1	(76.4)	69.0	71.9
悪 化	20.3	(14.9)	25.1	19.3
全産業DI	△9.7	(△6.2)	△19.2	△10.5

製造業DI	△6.9	(△7.3)	△24.1	△9.4
食料品	15.8	(5.3)	△9.1	9.1
繊維	△33.3	(△13.3)	△53.8	△46.1
木材木製品	△20.0	(20.0)	△57.1	0.0
窯業土石	30.0	(△20.0)	0.0	△9.1
電気機器	△31.5	(△10.6)	△35.0	△15.0
輸送機器	△14.8	(△3.7)	△27.3	△22.7
金属製品	△19.3	(△25.8)	△34.5	△13.8
一般機械	5.5	(△11.1)	△23.6	5.9
その他	4.3	(2.2)	△12.0	△4.0
非製造業DI	△12.0	(△5.1)	△15.6	△11.4
卸売業	△25.5	(△11.8)	△20.7	△12.1
小売業	△24.2	(10.4)	△16.2	△5.4
建設業	△1.4	(△5.6)	△6.6	△13.2
サービス	△8.6	(△6.2)	△19.4	△11.8

● 図表 2-4 採算DI推移(20/Ⅱは見通し)



【20年1～3月期】

○製造業

生産低迷によって8業種が「悪化」超となり、製造業全体のDIも大幅に悪化した。

○非製造業

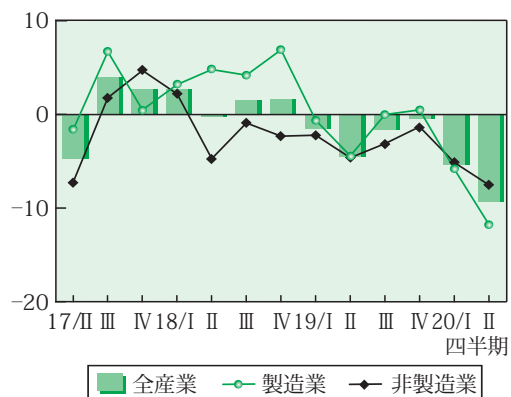
引き続き全4業種が「悪化」超となった。特にサービス業の中の運輸倉庫や旅館・ホテルで採算が大幅に悪化した。

(5)設備投資

～5期連続の「減少」超～

	19/Ⅳ 実績	20/Ⅰ(1～3月)		20/Ⅱ 見通し
		前回予測	実績	
増 加	13.5	(8.6)	11.8	9.5
横ばい	72.5	(76.2)	71.0	71.7
減 少	14.0	(15.2)	17.2	18.8
全産業DI	△0.5	(△6.6)	△5.4	△9.3
製造業DI	0.5	(△6.5)	△5.8	△11.7
食料品	△10.0	(0.0)	△9.1	△13.6
繊維	△7.1	(△21.4)	△25.0	△25.0
木材木製品	20.0	(0.0)	△14.3	△28.6
窯業土石	0.0	(0.0)	9.1	△18.2
電気機器	5.5	(△16.7)	5.6	△5.5
輸送機器	△8.3	(0.0)	△8.7	△21.8
金属製品	0.0	(△20.0)	△17.3	△20.7
一般機械	5.5	(16.7)	△11.8	0.0
その他	6.5	(△6.5)	4.1	0.0
非製造業DI	△1.3	(△6.7)	△5.1	△7.5
卸売業	△6.1	(△18.4)	△20.7	△9.5
小売業	△18.5	(△18.5)	△11.5	△5.7
建設業	△4.4	(△10.2)	0.0	△10.4
サービス	10.2	(7.6)	2.3	△4.5

図表2-5 設備投資DI推移(20/Ⅱは見通し)



【20年1～3月期】

○製造業

6業種で「減少」超。製造業全体の設備投資目的は、老朽化対応、合理化・省力化、生産能力向上の順であった。

○非製造業

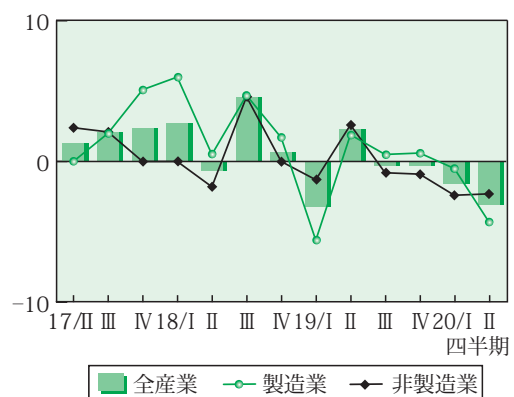
2業種で「減少」超となった。非製造業全体の設備投資目的では老朽化対応が目立った。

(6)資金繰り

～「普通」が約8割を占めるが、「余裕」が低下～

	19/Ⅳ 実績	20/Ⅰ(1～3月)		20/Ⅱ 見通し
		前回予測	実績	
余 裕	11.0	(8.9)	9.6	8.3
普 通	77.7	(80.8)	79.2	80.3
窮 屈	11.3	(10.3)	11.2	11.4
全産業DI	△0.3	(△1.4)	△1.6	△3.1
製造業DI	0.6	(△2.1)	△0.5	△4.3
食料品	△5.0	(△5.0)	0.0	△4.7
繊維	△33.3	(△46.7)	△25.0	△33.3
木材木製品	0.0	(0.0)	△14.3	△14.3
窯業土石	△10.0	(△10.0)	△9.1	△9.1
電気機器	21.0	(5.3)	10.0	5.0
輸送機器	3.7	(3.7)	0.0	△8.7
金属製品	△3.2	(△12.9)	△10.7	△17.8
一般機械	11.1	(5.6)	5.8	5.8
その他	4.4	(13.1)	8.0	8.0
非製造業DI	△0.9	(△0.9)	△2.4	△2.3
卸売業	△8.1	(0.0)	△8.6	△3.4
小売業	△7.1	(△3.5)	△2.7	△2.7
建設業	4.3	(△1.5)	△1.4	1.3
サービス	1.2	(0.0)	1.2	△4.5

図表2-6 資金繰りDI推移(20/Ⅱは見通し)



【20年1～3月期】

○製造業

繊維や木材木製品など4業種で「窮屈」超となった。製造業全体ではほぼ横ばいで推移した。

○非製造業

建設業が「窮屈」超に転じた。また、卸売業と小売業が引き続き「窮屈」超となった。

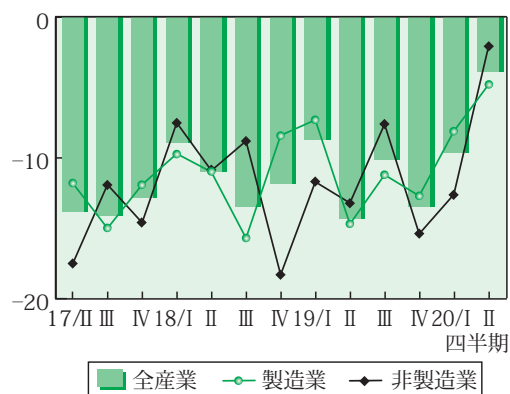
(7)在庫水準

～「過剰」超が続くものの、
マイナス幅は縮小～

	19/Ⅳ 実績	20/Ⅰ(1～3月)		20/Ⅱ 見通し
		前回予測	実績	
不足	2.2	(3.4)	4.3	5.0
適正	82.1	(87.6)	81.8	86.1
過剰	15.7	(9.0)	13.9	8.9
全産業DI	△13.5	(△5.6)	△9.6	△3.9

製造業DI	△12.7	(△4.7)	△8.1	△4.8
食料品	0.0	(10.0)	△13.6	△4.6
繊維	△26.7	(△13.3)	△8.4	△8.4
木材木製品	△20.0	(△20.0)	0.0	0.0
窯業土石	0.0	(0.0)	0.0	0.0
電気機器	△10.5	(△5.3)	0.0	5.2
輸送機器	△14.8	(△7.4)	△13.0	△13.0
金属製品	△9.7	(0.0)	△3.7	△7.4
一般機械	△11.1	(5.5)	△23.5	△5.9
その他	△17.8	(△13.3)	△6.0	△4.0
非製造業DI	△15.4	(△7.7)	△12.6	△2.1
卸売業	△12.0	(△6.0)	△10.3	△1.7
小売業	△21.4	(△10.7)	△16.2	△2.7
建設業	0.0	(0.0)	0.0	0.0
サービス	0.0	(0.0)	0.0	0.0

● 図表2-7 在庫水準DI推移(20/Ⅱは見通し)



注) 非製造業のうち、建設業、サービス業は対象外

【20年1～3月期】

○製造業

6業種で「過剰」超となった。しかし、製造業全体では「過剰」超幅の縮小がみられた。

○非製造業

売上減少などに伴い、卸売業や小売業では、引き続き「過剰」超となった。

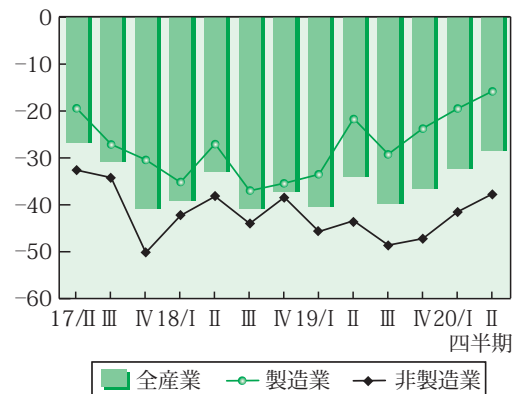
(8)人 員

～依然大幅な「不足」超だが、
マイナス幅は2期連続で縮小～

	19/Ⅳ 実績	20/Ⅰ(1～3月)		20/Ⅱ 見通し
		前回予測	実績	
過剰	5.5	(5.0)	6.2	5.5
適正	52.5	(54.2)	55.4	60.5
不足	42.0	(40.8)	38.4	34.0
全産業DI	△36.5	(△35.8)	△32.2	△28.5

製造業DI	△23.7	(△24.2)	△19.5	△15.8
食料品	△25.0	(△20.0)	△36.4	△31.8
繊維	△20.0	(△13.3)	△16.7	0.0
木材木製品	40.0	(0.0)	0.0	0.0
窯業土石	△50.0	(△40.0)	△36.4	△18.2
電気機器	0.0	(△21.0)	△15.0	△10.0
輸送機器	△18.5	(△22.2)	△21.7	△17.4
金属製品	△19.4	(△25.8)	7.2	△10.8
一般機械	△38.8	(△38.9)	△35.3	△35.3
その他	△35.5	(△24.5)	△22.0	△12.0
非製造業DI	△47.2	(△45.4)	△41.5	△37.7
卸売業	△36.0	(△24.0)	△32.7	△29.3
小売業	△42.8	(△39.3)	△35.1	△29.7
建設業	△55.7	(△62.9)	△56.0	△50.7
サービス	△48.1	(△45.7)	△37.6	△35.5

● 図表2-8 人員DI推移(20/Ⅱは見通し)



【20年1～3月期】

○製造業

7業種が「不足」超。一方、金属製品が「過剰」超に転じ、製造業全体のDIでは「不足」超幅が縮小した。

○非製造業

依然各業種が大幅な「不足」超。しかし、非製造業全体のDIは2期続けて「不足」超幅の縮小がみられた。

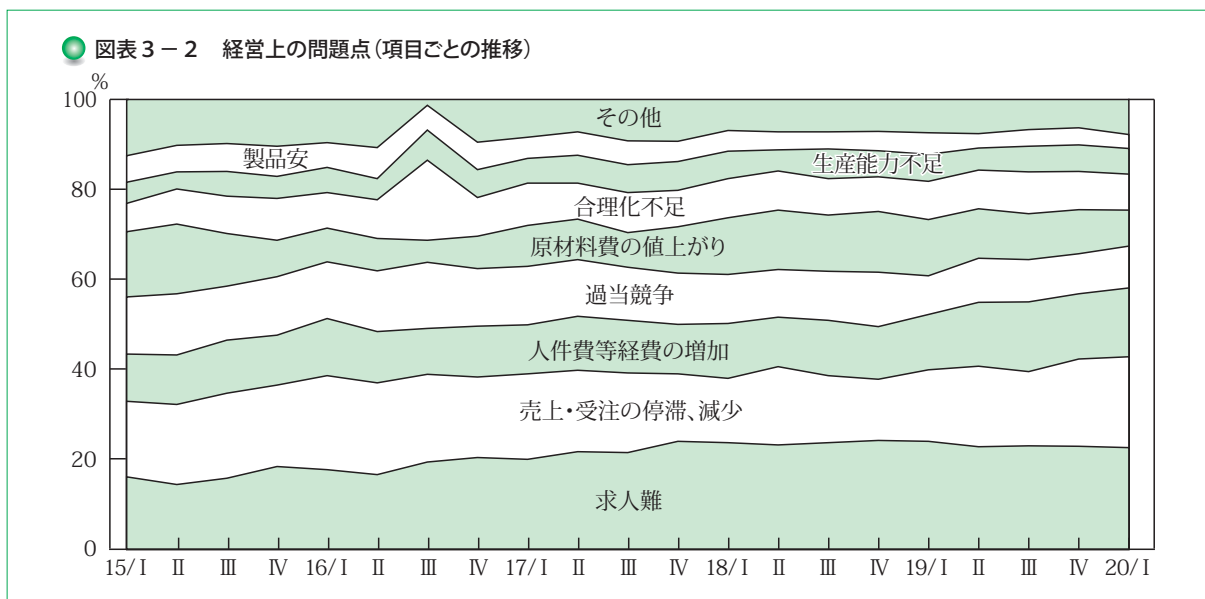
3. 経営上の問題点

～「求人難」が引き続き1位～

図表3-1 経営上の問題点

(単位：％)

項目	19年 10～12月期	20年 1～3月期	前期比増減	回答の多い業種
求人難	54.0	53.7	△0.3	建設業、サービス業、卸売業
売上・受注の停滞、減少	46.0	48.1	2.1	木材木製品、一般機械、金属製品
人件費等経費の増加	34.2	36.3	2.1	輸送機器、サービス業、その他製造業
過当競争	21.0	22.0	1.0	木材木製品、食料品、小売業
原材料費の値上がり	23.2	19.0	△4.2	食料品、その他製造業、窯業土石
合理化不足	20.0	19.0	△1.0	食料品、輸送機器、木材木製品
生産能力不足	13.9	13.6	△0.3	一般機械、電気機器、建設業



注：図表3-2の分母は、本項目（問題点）についての回答数（複数回答）合計。

経営上の問題点をみると、1位「求人難」、2位「売上・受注の停滞、減少」、3位「人件費等経費の増加」の順となった。

回答の多い業種は、「求人難」では建設業、サービス業、卸売業など、「売上・受注の停滞、減少」では木材木製品、一般機械、金属製品など、「人件費等経費の増加」では輸送機器、サービス業、その他製造業などとなった。

項目ごとの推移を長期でみると、「求人難」の割合が徐々に上昇してきている。